

九建日報

発行所
株式会社 九建日報社
〒812-0018 福岡市博多区住吉5-9-19
電話 代表092(431)5361番
FAX 092(431)7613番
購読料1ヵ月7,020円

北九州支局 093(383)8436
長崎支局 095(827)5595
熊本支局 096(273)8708
大分支局 097(594)0518

建コン協、九州地整ら意見交換

DXの着実な進展確認

総合評価への理解も浸透

（一社）建設コンサルタンツ協会（中村哲己会長）は31日、福岡市内で九州地方整備局や地方自治体との意見交換会を開催した。DX推進に関する議題では、福岡県がBIM/CI活用業務を今年度中に試行発注することや、北九州市がオンライン会議を積極的に推進していることなどを説明。中村会長は、これらDXに対する各機関の説明を踏まえ、「昨年の回答と比べると、かなり進んだ内容となっている。いろいろな形で取り組んでいただいているということが、明確になったと感じている。」等とした。

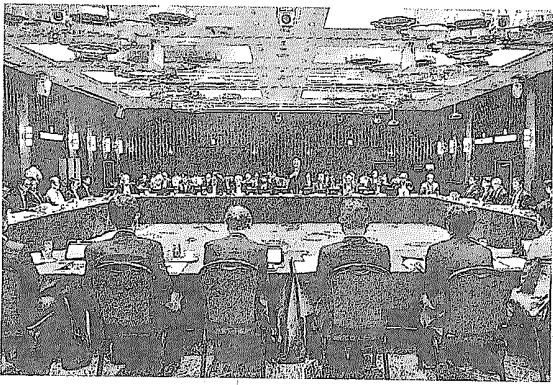
このうち『担い手』にして年度末に集中する納期を、ゼロ国債の活用等により第2四半期末

等に分散することなどを提案。さらにはワイヤレスLANのさらなる改善に向けて、『ワイヤレスLAN』の適用拡大などを要望した。

『技術力の選定』に係る議題では、建コン協が県・政令市に対して総合評価方式の導入や発注量の拡大等を提案することにも、試行中の自治体に対して実施状況の説明などを求めた。

『品質確保』に係る議題では、建コン協が受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止の取り組みとして「合同現地踏査の実施」や「設計条件明示チェックシート」の効果的な運用・活用」等について提案。

このうちチェックシートについては、九州地整が「今年度からは予備設計でチェックシートを作って、詳細設計



5年度の建コン協と各地整等との意見交換会は、7月31日の東北ブロックを皮切りに開始され、九州では8月31日、福岡市博多区の八仙閣で開かれた。

5年度の建コン協と各地整等との意見交換会は、7月31日の東北ブロックを皮切りに開始され、九州では8月31日、福岡市博多区の八仙閣で開かれた。

九州での会議には、九州地整から森戸義貴局長や杉中洋一副局長、寺本耕一副局長ら17人、九州各県および政令市から発注部の幹部職員ら10人、建コン協からは本部より中村会長や大村副会長、多田智副会長ら15人、九州支部からは田中清支部長や尾長谷孝之副支部長、上村俊英副支部長ら27人が出席した。

今年度の意見交換の議題は①担い手確保・育成のための環境整備②技術力の選定③品質の確保・向上④DX推進の環境整備と成長と分配の好循環の実現に係る取り組みについて。

県や宮崎県、福岡市、熊本市等も平準化の重要性について言及し、ゼロ債等を活用した前倒し発注や、早期の繰り越し手続きに努めている。等とした。

『技術力の選定』に係る議題では、建コン協が県・政令市に対して総合評価方式の導入や発注量の拡大等を提案することにも、試行中の自治体に対して実施状況の説明などを求めた。

『品質確保』に係る議題では、建コン協が受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止の取り組みとして「合同現地踏査の実施」や「設計条件明示チェックシート」の効果的な運用・活用」等について提案。

このうちチェックシートについては、九州地整が「今年度からは予備設計でチェックシートを作って、詳細設計

3年度も2件、4年度は11件で実施し、本年度は15件の発注を予定。鹿児島県は「4年度から試行を開始し、同年度は道路詳細設計で16件を発注し、今年度も引き続き11件を予定している。」等と報告した。導入が遅々と進まなかった過去と比較すると、これまでの各機関との意見交換会等を通じて、着実に導入効果への理解が得られつつあることがうかがわれた。

『技術力の選定』に係る議題では、建コン協が県・政令市に対して総合評価方式の導入や発注量の拡大等を提案することにも、試行中の自治体に対して実施状況の説明などを求めた。

『品質確保』に係る議題では、建コン協が受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止の取り組みとして「合同現地踏査の実施」や「設計条件明示チェックシート」の効果的な運用・活用」等について提案。

このうちチェックシートについては、九州地整が「今年度からは予備設計でチェックシートを作って、詳細設計

項目では、福岡県が積極的に推進している。本年度にBIM/CI活用業務に関する試行要領を策定し、今年度中に数件の試行業務を発注することを説明。北九州市はオンライン会議をした。